



## 開催報告：地域活性化フィールドワーク in 浜通り ～わたしたちの“やってみたい”をかなえる地域づくり～

- ・福島県では、地域と関わる様々な方との連携により、住民が主役の個性と魅力あふれる地域づくりを目指し、地域・人材つながり新事業に取り組んでいます。この取組の一環として、身近な地域活動の見学や住民同士の交流等による地域づくりの機運醸成を目的に「地域活性化フィールドワーク」を、浜通り・中通り・会津の3方面で行っています。
- ・浜通りでの開催となる今回は、いわき市を拠点に自社栽培の「福島綿」を用いた商品の企画・販売等に取り組むとともに、ものづくりの背景や地域の営みを次世代へと伝える取組にも注力している「株式会社起点」を訪問しました。
- ・午前中は、取組に至った背景や思い、今後の展望等についてお話いただいた後、参加者が実際に綿に触れ糸を紡ぐワークショップを行いました。午後は3グループに分かれ、施設の利活用方法や新商品のアイデアについて考え、勝手アドバイスをを行いました。

### 開催概要

日 時：令和8年1月30日（金）10:30～15:30  
会 場：株式会社起点  
（いわき市四倉町駒込広畑11）  
講 師：宇都宮大学地域デザイン科学部教授 石井 大一郎 氏  
株式会社起点 代表取締役 酒井 悠太 氏  
内 容：①株式会社起点の取組説明および綿に触れるワークショップ  
②グループでの意見交換、学びの共有、勝手アドバイス  
参加人数：10名（自治会・協議会、地域づくり団体、NPO、地域おこし協力隊、自治体職員等）  
主 催：福島県企画調整部地域振興課

### 参加者の感想（抜粋）

- ・株式会社起点の設立から現在に至るまでの様々な苦勞をお伺いし、衝撃を受けた。
- ・研修では、参加者同士で勝手なことを意見し合ったが、他の方々からの意見を聞くことができ、私自身色々な気付きがあり勉強になった。
- ・現代の大量生産・大量消費社会の中で、普段消費者の目に触れなくなっている、原材料の生育環境や一つ一つの工程等を明らかにしていこうとする姿勢から、ものづくりへの責任感や今後の地域への想いを感じた。
- ・私の所属している組織では、事業化を目指すような活動は未だないが、今後一つの切り口として考える必要があるものだと思ったし、全体の運営にもそのような視点を持って望む必要があるのではないかと感じた。
- ・今後、事業化を目指し地域内で活動する人が現れたときに、速やかに連携し、支援できるように努めたい。

<フィールドワークの様子>



<グループワークの様子>

